

## BMC 海外派遣報告

化学専攻 分子熱力学研究センター 博士後期課程 1年 鈴木晴

派遣目的：The 2008 Calorimetry Conference に参加

派遣先：アメリカ合衆国 ニュージャージー州 Jersey City

派遣期間：2008年7月2日～2008年7月6日

2008年7月2日から6日にかけて、アメリカ合衆国、ニュージャージー州、Jersey City で開催された The 63rd Calorimetry Conference (CALCON2008) に参加した。この会議は、熱量測定を研究の手法に用いている様々な分野の研究者が集う学会で、毎年アメリカ熱測定学会の主催で開催されている。アメリカ国内の学会であるため北米からの参加者が大多数を占めるが、ヨーロッパや日本をはじめとするアジアからの参加も多く、国際会議に近い雰囲気の特徴である。本会議では、毎年、熱量測定分野で活躍する研究者に複数の賞が送られる。本年は、光栄にもその賞の一つで学生に贈られる Giauque 賞を頂くことができた。

今年の本会議の参加者は約 110 名で、全体で 101 件の発表があった。講演は受賞講演、全体講演、一般講演（招待講演を含む口頭発表とポスター発表）から構成され、一般講演は Solution & Fluid Mixtures, Biothermodynamics, Thermodynamic Databases, Industrial Applications, Materials & Nanotechnology, Macromolecules, Pharmaceutical Products の 7 部門に分かれて行われた。各部門の名前からわかるように、本会議は熱量測定という研究手法が共通項であるため、扱う対象は金属など堅いものから有機物や生体高分子などの柔らかい系に至るまで多種多様である。様々な講演を聴くことで、その分野で現在盛んに行われている研究を、化学熱力学という切り口を通して学ぶことができた。

私は、会期 3 日目にあたる 7 月 5 日に“Orientational Ordering and Rotational Tunneling of Partially Deuterated Methyl Groups in Solids”というタイトルで受賞講演を行った。また、これとは別にポスター発表も 1 件行った。いずれの発表においても充実した議論が行われ、有意義な時間を過ごすことができた。

会議が行われた Jersey City は、Hudson 川を挟んで New York の対岸に位置するため、講演の合間には Manhattan の摩天楼を眺めることができた。また、会期中にアメリカ合衆国独立記念日（7 月 4 日）を迎え、夜には盛大な花火を鑑賞した。

学会全体を通して多くの研究者と交流ができたことが大きな収穫であった。普段、論文中で何度も名前を目にしている研究者と実際に会い、議論することができたことは大変有益であった。また、アメリカやヨーロッパで活動する同年代の研究者との交流を通して、世界の若手研究者の立場や研究環境を知ることができた。

今回の会議参加は、BMC 海外派遣プログラムに支援していただいた。この場を借りてお礼を申し上げたい。



Manhattan の夜景を背景に行われた Conference Banquet の様子。